第三種郵便物認可（大正三年八月七日）　昭和十三年六月十五日　THE IWAKIJIHO　（水曜日）　（第七千二百三十六號）（一）

夕刊
磐城時報
十四日
福島縣平市新田町十四 編輯兼發行印刷人 岡田弘成
福島縣平市新田町十四 印刷所 加納活版所
福島縣平市新田町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

鐵道のボーナス 明日一齊に支給
貯金報國を心掛けよと 山崎驛長から注意

鐵道省では十五日一齊にボーナスを支給するが平驛について模様を聞くと驛長は一ヶ月給料の十三割、判任官は十二割、雇は十一割、傭人十割で人員八百七十名に五萬六千圓がバラ撒かれる本年は物價騰貴の關係で例年に比べ二割の増額である、山崎驛長はボーナス支給に際し非常時に處する意味で成る可く愛國公債その他貯金報國の實をあげるやう左の如き注意書を印刷してボーナスと共に配布する

尚十六日には引續き昇格、昇給を發表するが昇給は平驛のみで六十五名、判任官は最高一ヶ月十圓、以下最低一圓五十錢で平均二圓である

今期の賞與金に就て

今期の賞與金は前年に比し幾分割がよくなつて居ります。これは支那事變關係で非常な御勞苦をなさつて居る諸君に對し吾が上司に於てその勞苦を犒はるゝ意味が充分に含まれて居るのであります諸君も御承知の通り前古未曾有の今次の非常時局はまだ〳〵相當長く續くでせう。吾々は倍々堅忍持久盡忠報國の誠を披瀝して吾が君國の爲めに盡力せなければなりませんそれには職務に精勵するのは勿論でありますが一面又出來るだけ支出を節約して貯蓄を計つて下さることも何より皇國の爲めだと存じます。今度の賞與の如きも成るべく愛國公債、愛國債券等を買つて貯金報國の實を示して頂きたいと思ひます。右一筆賞與に副へて

平驛長 山崎花郎

水道鐵管の破裂 九十箇所に達す
水道委員會で善後策 去月中地震の被害

平市水道部では去月二十三日の大地震で鐵管の破裂箇所多く十日迄に判明した漏水九十ヶ所に上り水道部では連日これが修理に忙殺されてゐるが本年度水道補修費豫算五百圓の大部分を費消してゐるので近く水道委員會を開き増額について協議する事になつた

年金報國 江名で座談會

江名町では十三日午後四時から同町大森屋に仙臺遞信局角田主事を招き銃後の護りとしての年金報國に關し座談會を開いた

縣道工事 平・江名間

縣道平・江名線小名濱町古港地内改修工事着工のため縣土木課糸井技手が十四日來郡する

平第二校 兒童保護者會

平第二校兒童保護者會は十四日午前九時同校講堂に開き學藝會後決算書を承認、評議員補欠選擧を行つた、十二年度決算左の如し

△歳入
一金四千壹百貳拾八圓八拾六錢五厘
内譯
一金貳百七拾貳圓八拾貳錢 前年度繰越金
一金六百拾參圓五拾五錢五厘 同殘品價格
一金參千貳百參拾五圓四拾貳錢 會費
一金五圓貳拾貳錢 預金利子
一金壹圓八拾五錢 雜收入

△歳出
一金參千九百四圓貳拾錢五厘
内譯
一金壹百八拾八圓貳拾參錢 事務費
一金參千參百九拾八圓九拾五錢五厘 學用品費
一金壹百參拾六圓八拾四錢 體育奬勵費
一金五拾四圓 講演諸費
一金四拾參圓七拾錢 兒童圖書費
一金八拾貳圓四拾八錢 事業雜費

差引殘高
一金貳百貳拾四圓六拾六錢 現金（次年度繰越）
外＝一金四百貳拾貳圓四拾四錢壹厘殘品價格同前
以上

港灣協會 總會に出席

江名町長作山一技氏外五名は十五日東京に開かれる港灣協會總會に出席のため十四日上京した

▲澤渡村會

澤渡村では十四日午前十時から村會を招集し左記を附議した
役場内に電話架設の件
村税特別戸數割納期決定の件（村條例一部改正）

石城郡の春繭 十萬貫を豫想
霜害のため減少

石城地方の春繭出廻最盛期は十七日頃と見られてゐるが蠶業取締所平支所調査にかゝる集散別收繭豫想は左の如く十萬八千貫で過般の霜害によつて何處も若干の減量と見られてゐる

四倉	三〇、〇〇〇貫
平	六〇、〇〇〇
植田	一〇、〇〇〇
上遠野	八、〇〇〇
計	一〇八、〇〇〇

前借踏倒し 酌婦捕はる

内郷村大字綴字金坂洋傘修繕業朝鮮生れ都相雲四七長女アイ子（十六）は茨城縣高萩署管内で前借を踏んで逃走したが手配により平署で嚴探中の處十三日夜内郷村の實家に潜伏中を逮捕し高萩署片岡刑事に引渡した

▲國漢講習會

濱三郡中等學校國語、漢文講習會は十七日、十八日兩日磐城高等女學校に開催するが講師は岩井高師教授である

▲學事統計指導

濱三郡中等學校學事統計指導會は十四日午前九時から磐城中學校に開いたが縣統計課長臨席した

▲苗代品評會

夏井村の苗代品評會入賞者左の如し
1、木田本、2、酒井一郎、山名源、山本勝藏、上遠野甚藏、阿部安清、坂本茂長、3酒井粂吉外八名

五月の平紹介所
求人側著るしく増加

平職業紹介所去月中の成績は

	男	女	計
求人	一、三三五	六八	一、四〇三
求職	二三九	四〇	二七九
就職	二六	三一	三七四

景氣好轉に伴ふ現象として求人數は漸次増加、求職者の約五倍に上つて居り同所でもこれが圓滑斡旋に骨を折つてゐる、求人數の最高は何といつても炭礦從業員の八百十名

前月との比較は求人數の七百四十六名減に對して求職は小學卒業兒の斡旋等で百八十一名の増、更に昨年同期に較べると求人千九十四名、求職七十七名の何れも増加を示してゐる

貯蓄奬勵に就て
平郵便局長（寄）

今後政府に於て發行せられます尨大なる國債の消化圓滿ならしめますと共に軍費及軍需生産資金の調達を圓滑にし且つは國内に撒布せられます巨額の政府支拂金に依る通貨の膨脹を防止する爲政府に於ては特に貯蓄の徹底を要望して居ることは御承知の通りであります。

我國貯蓄機關の大宗であり又國民貯蓄機關とも言ふべき郵便貯金事業を掌理して居ります遞信省にきましても夙に政府の方針に基き國家の大目的遂行に協力致して居るのでありますが近く國民精神總動員貯蓄報國强調週間の開始せらるる機會に一層郵便貯金預入者の便宜を計る爲新に局所外預入制度並に集金制度を開始する見込であります。

局所外貯金とは工場、會社其の他多數の預金者を擁する向に吏員を出張させて預入の取扱をするもので貯金團體は此の制度を利用すれば態々郵便局迄預金を持運ぶ手數がなくなるのであります。

又集金貯金とは毎月一回所定の金額例へば二圓、三圓、五圓、七圓、十圓と言ふ金額を郵便局の集金人に就き預入し一定の額例へば百圓に達する迄は拂戻が出來ないと言ふ仕組であります。

此の貯金は現在ある月掛貯金制度と異なり市制施行地でも利用が出來又預金額も二圓、三圓、五圓七圓、十圓の內都合に依つて何れでも出來ることになつて居るのであります。

以上の如き新制度を以て今次國民貯蓄奬勵運動に對應せむとして居るのでありますが御承知の如く郵便貯金は我國財政經濟のキャスチングボートを握つて居る大藏省預金部資金總額五十數億圓の約八割を占めて居ると言ふ事を見ましても如何に國家的に重要な働きをして居るかゞ推量出來るのでありまして時局下預金部資金運用の實情に稽へましても郵便貯金の増加を計る事は蓋し切實なるを痛感致しますと共に國民各位が眞に時局の重大性に目醒め貯蓄奬勵運動に伴ふ郵便貯金事業の積極的活動に御協力せらるゝ様期待して已まないものであります。

藥劑士堀功調劑
よく効くめぐすり 神教水 一瓶二〇錢
發賣元 文 魁文堂

塩豚
平市田町 三二屋 電話三二三番

飲料氷業界ニ卅年ノ歴史ト傳統ヲ持ツ

㊎商店ノ

アイスキャンデー

機械冷凍ノアル設備ハ世界的ニ名聲ヲ博シ使用機械ハ世界ノ權威キンザリング(專賣特許)

◇卸部◇

キャンデー製造原料一切

第三支店　サルマ　通警察署前丁目

御引立ヲ乞フ

安田生命　代理店

井上茂作

平市五町目六番電話

北海屋の もちあめ

箱入　三十錢ヨリ　壹圓マデ

◎淺草のり　十錢ヨリ四十錢　各種アリマス

平市二丁目

北海屋商店

電話三八番

ゲンブ

特許新洗劑

漬けて十分間　揉まずに落ちる

モノゲンは石鹸とは原料から異つて居て、脂肪酸高級アルコールと云ふ新原料から製造されたもので、水に溶いても中性で毛織物を洗つて生地を縮める事なく、且又人絹やステープル製品も短時間に美しく、白物は黄はめず、美しく洗へ、其上褪せ出しが無く、どんな生地でも理想的に洗へる新洗濯劑です

定價　一・二〇　五〇　三五

ゲンブ　石鹸

ゲンブマルセール石鹸の最上特製です。又食器洗ひに用ひても最適です。

髙島屋デパート小間物店等にあり

ゲンブマルセール石鹸本舗　第一工業製藥株式會社

特約店　中野洋品店　平二・電五三

債券　實買　金融

質物一般

多田井商店

平市大工町

電話五九一

振替仙台一五三九

公債・債券　質物一般

三井質店

平市四丁目

電話六〇六番

花柳病科專門

泌尿器科

皮膚科

診療　午前八時ヨリ

時間　午後九時マデ

平市田町(電話六九一)

入院隨意

江尻醫院

醫學博士　江尻伊三郎

新設

產婦人科

醫學士　黑澤廣

入院隨意

平市田町

安齋醫院

電話四五七

內臟外科

エツキス光線

院長　安齋徹

產科

婦人科

花柳病科

井坂醫院

平市田町(電話五五九番)

鹽屋

福島縣平市

電話(營業部專用二〇番　一般用二七番)

振替東京一九七五五番

醬油と味噌

明治生命　磐城代理店　山崎與三郎

一、煉炭　各種　特價販賣

一、豆炭

薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵ヌ致シマス

平驛前

阿部石炭商店

電話二十七番

三百年の歴史を有する

家傳靈藥

相馬

ハンサキ消食散

一名かげの藥

平市大町

代理店　丸龍商店

電話一三三番

印刷工　募集

文撰工、植字工　數名

希望者は御通知下さい。

小名濱町定西

常磐新聞社

伊藤隆次